

再 評 価 調 書

NO. 1

事業名	通常砂防事業	事業区間	大原谷川 大野市蔵生			
事業目的						
大原谷川は、下流域に人家26戸および県道五条方松原勝山線を保全対象に含む溪流である。現在、溪流の浸食・荒廃が激しく、溪床には多量の不安定土砂が堆積していることから、今後の豪雨時には土石流が発生する恐れがあるため、早急に砂防堰堤を整備する必要がある。						
全体事業内容						
堰堤工 2基 調査測量設計 1式、用地補償費 1式						
事業計画	事業採択年度	用地着手年度	工事着手年度		完成予定年度	
	令和2年度	令和3年度	令和4年度		令和9年度	
事業費（千円）		全体事業費	執行済み額 (R6年度まで)	進捗率 (R6末)	残事業費 (R7以降残額)	備考
予 算 額		435,900	243,000	55.7%	192,900	
財 源 内 訳	国 庫	207,000	115,000		92,000	
	県 他	228,900	128,000		100,900	
費用対効果		5.06(総便益19.67億円 総費用3.88億円)				
事業の進捗状況	R6までの状況	堰堤1基が完成。				
	R7以降残事業	残る堰堤1基を完成させ、人家26戸および県道、市道を保全する。				
前回との比較	前回計画	今回計画	変更となった理由			
全体事業費	3. 3億円	4. 3億円	・社会経済情勢の変化として労務費、機械経費、材料費、諸経費の増(0.5億円) ・堰堤規模の変更による増(0. 5億円)			
完成予定年度	令和8年度	令和9年度	・用地買収予定地の地図混乱の解消に日数を要したため			
事業を休止した場合の影響						
今後の豪雨等により土石流が発生した場合、下流域の人家等に多大な被害が生じる恐れがある。						
備 考						

再 評 価 調 書

NO. 2

事業名	通常砂防事業		事業区間	上山川 鯖江市中戸口町		
事業目的						
上山川は、平成16年7月の福井豪雨により土砂が流出し、人家への被害が発生した。また、流域内の荒廃が著しく、今後の豪雨で下流域に存在する人家等に被害が発生する危険性が高い箇所であり、早急に土石流対策を実施する必要がある。						
全体事業内容						
堰堤工 2基、溪流保全工 240m 調査測量設計 1式、用地補償費 1式						
事業計画	事業採択年度		用地着手年度		工事着手年度	
	令和2年度		令和3年度		令和7年度	
						完成予定年度
						令和12年度
事業費（千円）		全体事業費	執行済み額 (R6年度まで)	進捗率 (R6末)	残事業費 (R7以降残額)	備考
予 算 額		669,000	143,750	21.5%	525,250	
財 源 内 訳	国 庫	319,220	69,100		250,120	
	県 他	349,780	74,650		275,130	
費用対効果		7.88(総便益41.78億円 総費用5.30億円)				
事業の進捗状況	R6までの状況	堰堤1基の調査測量設計を完成し、用地補償を行う。				
	R7以降残事業	堰堤2基および溪流保全工240mを完成させ、人家56戸、中戸口町公民館および県道、市道を保全する。				
前回との比較	前回計画	今回計画	変更となった理由			
全体事業費	6.0億円	6.6億円	・社会経済情勢の変化として労務費、機械経費、材料費、諸経費の増(0.6億円)			
完成予定年度	令和9年度	令和12年度	・用地境界の協議に日数を要しているため			
事業を休止した場合の影響						
今後の豪雨等により土石流が発生した場合、下流域の人家等に多大な被害が生じる恐れがある。						
備 考						

再 評 価 調 書

NO. 3

事業名	通常砂防事業	事業区間	小堀川 大飯郡おおい町小堀			
事業目的						
小堀川は、平成 25 年 9 月の台風 18 号により土砂が流出し、人家への被害が発生した。また、流域内の荒廃が著しく、今後の豪雨で下流域に存在する人家等に被害が発生する危険性が高い箇所であり、地域から土砂災害防止に対する要望が高い。このため、下流域の住民の生命・財産を守るため、早急に砂防堰堤を整備する必要がある。						
全体事業内容						
堰堤工1基、溪流保全工125m 調査測量設計 1式、用地補償費 1式						
事業計画	事業採択年度	用地着手年度	工事着手年度		完成予定年度	
	令和2年度	令和3年度	令和4年度		令和8年度	
事業費（千円）		全体事業費	執行済み額 (R6年度まで)	進捗率 (R6末)	残事業費 (R7以降残額)	備考
予 算 額		456,000	290,000	63.6%	166,000	
財 源 内 訳	国 庫	223,000	143,950		79,050	
	県 他	233,000	146,050		86,950	
費用対効果		4.21(総便益17.32億円 総費用4.11億円)				
事業の進捗状況	R6までの状況	調査測量設計、用地補償費を完了し、堰堤1基を施工。				
	R7以降残事業	堰堤1基、溪流保全工125mを完成させ、人家22戸、鉄道および市道を保全する。				
前回との比較	前回計画	今回計画	変更となった理由			
全体事業費	3. 3億円	4. 5億円	・社会経済情勢の変化として労務費、機械経費、材料費、諸経費の増(0.5億円) ・地盤改良の追加による増(0. 7億円)			
完成予定年度	令和7年度	令和8年度	・追加の地盤改良に期間を要するため			
事業を休止した場合の影響						
今後の豪雨等により土石流が発生した場合、下流域の人家等に多大な被害が生じる恐れがある。						
備 考						

再 評 価 調 書

NO. 4

事業名	通常砂防事業	事業区間	ホシヨノ奥川 三方上中郡若狭町無悪			
事業目的						
ホシヨノ奥川は、平成 25 年 9 月の台風 18 号により土砂が流出し、人家等への被害が発生した。また、流域内の荒廃が著しく、今後の豪雨で下流域に存在する人家等に被害が発生する危険性が高い箇所であり、地域から土砂災害防止に対する要望が高い。このため、下流域の住民の生命・財産を守るため、早急に砂防堰堤を整備する必要がある。						
全体事業内容						
堰堤工 1基 調査測量設計 1式、用地補償費 1式						
事業計画	事業採択年度	用地着手年度	工事着手年度		完成予定年度	
	令和2年度	令和3年度	令和5年度		令和8年度	
事業費（千円）		全体事業費	執行済み額 (R6年度まで)	進捗率 (R6末)	残事業費 (R7以降残額)	備考
予 算 額		404,000	148,850	36.8%	255,150	
財 源 内 訳	国 庫	192,500	71,000		121,500	
	県 他	211,500	77,850		133,650	
費用対効果		5.14(総便益17.76億円 総費用3.45億円)				
事業の進捗状況	R6までの状況	調査測量設計、用地補償費を完了し、堰堤1基を施工。				
	R7以降残事業	堰堤1基を完成させ、人家22戸および町道を保全する。				
前回との比較	前回計画	今回計画	変更となった理由			
全体事業費	3. 5億円	4. 0億円	・社会経済情勢の変化として労務費、機械経費、材料費、諸経費の増(0.5億円)			
完成予定年度	令和7年度	令和8年度	・用地交渉に日数を要したため			
事業を休止した場合の影響						
今後の豪雨等により土石流が発生した場合、下流域の人家等に多大な被害が生じる恐れがある。						
備 考						

再 評 価 調 書

NO. 5

事業名	道路改良事業	事業区間	一般国道 365号 越前市上太田町～岡本町			
事業目的						
当路線は、越前町から越前市南西部を経て南越前町に至る、産業、経済、文化交流の面からも重要な機能を有する幹線道路である。しかし、当区間の沿線には従業員数の多い工場が多く、慢性的に交通渋滞が発生し、影響は市中心部にまで及んでいる。さらに事業拡大に伴う新工場建設が進んでおり、早急な対策が望まれる。 当区間を4車線に拡幅し、朝夕の通勤時間帯における越前市内全体の交通渋滞が緩和されるとともに徒歩や自転車通勤者のため歩行者空間を整備し安全・安心の確保が図られる。						
全体事業内容						
全体延長 1,360m 幅員23.25m(車道幅員13.00m 4車線) 両側歩道						
事業計画	事業採択年度	用地着手年度	工事着手年度		完成予定年度	
	令和2年度	令和7年度	令和8年度		令和12年度	
事業費(千円)		全体事業費	執行済み額 (R6年度まで)	進捗率 (R6末)	残事業費 (R7以降残額)	備考
予 算 額		3,350,000	63,000	1.9%	3,287,000	
財 源 内 訳	国 庫	1,754,762	33,000		1,721,762	
	県 他	1,595,238	30,000		1,565,238	
費用対効果		3.51(総便益108.2億円 総費用30.8億円)				
事業の進捗状況	R6までの状況	道路予備設計および地元説明を実施				
	R7以降残事業	地元説明を進め、用地取得、物件等の補償完了後、速やかに道路改良工事に着手し事業効果の早期発現を図る。				
前回との比較	前回計画	今回計画	変更となった理由			
全体事業費	31.0億円	33.5億円	社会経済情勢の変化による労務費、機械経費、材料費、諸経費の増(2.5億円)			
完成予定年度	令和8年度	令和12年度	事業に対する地元の理解と協力を得るため、地元説明を丁寧に進めているため、事業進捗に遅れが生じている			
事業を休止した場合の影響						
越前市南西部の幹線道路が整備されないことにより当区間の交通渋滞が緩和されず、さらには越前市内全体の交通渋滞の緩和ができない。また、歩道が設置できず、児童や一般歩行者の安全性が確保ができない。						
備 考						

再 評 価 調 書

NO. 6

事業名	道路改良事業	事業区間	一般県道 皿谷大野線 大野市中挟～中保				
事業目的							
当路線は、平成10年に都市計画決定されている市街地中心部への「東部アクセス道路」である。 平成29年7月に中部縦貫自動車道(福井～大野間)が開通し、大野ICと岐阜県境(国道158号、道の駅「越前おおの荒島の郷」を經由)を結ぶ国道157号大野バイパスも平成28年9月に全線4車線化された。さらに、令和5年10月には中部縦貫自動車道が九頭竜ICまで延伸された。 当区間の整備により、市街地へのアクセスが強化され交通の円滑化が図られるとともに、奥越地域の観光・産業の発展が期待される。また、有事の際の緊急道路としての機能も担うなど地域住民の安全・安心の確保が図られる。							
全体事業内容							
全体延長 1,000m 幅員16.0m、12.0m (車道幅員6.0m 2車線) 両側歩道、片側歩道							
事業計画	事業採択年度		用地着手年度		工事着手年度		完成予定年度
	令和2年度		令和4年度		令和5年度		令和10年度
事業費(千円)		全体事業費	執行済み額 (R6年度まで)	進捗率 (R6末)	残事業費 (R7以降残額)	備考	
予 算 額		3,100,000	557,349	18.0%	2,542,651		
財 源 内 訳	国 庫	1,647,081	315,218		1,331,863		
	県 他	1,452,919	242,131		1,210,788		
費用対効果		2.12(総便益58.0億円 総費用27.4億円)					
事業の進捗状況	R6までの状況	令和5年度に橋梁工事(右岸橋台工事)に着手済みであり、令和6年度から電力会社、大野市公園などの物件補償を進める。					
	R7以降残事業	残る用地取得、物件等の補償を進めるとともに、道路改良工事を進め事業効果の早期発現を図る。					
前回との比較	前回計画	今回計画	変更となった理由				
全体事業費	28.0億円	31.0億円	社会経済情勢の変化による労務費、機械経費、材料費、諸経費の増(3.0億円)				
完成予定年度	令和10年度	令和10年度	変更なし				
事業を休止した場合の影響							
大野市東部方面から市街地部へのアクセス道路が整備されないことにより、広域幹線ネットワークが形成されず、中部縦貫自動車道開通や北陸新幹線開業により期待される観光・産業の発展に対して十分な効果が発現されない。また、大野市中心部へのアクセス機能が低下し、まちなかの円滑な道路交通が妨げられる。							
備 考							

再 評 価 調 書

NO. 7

事業名	基幹河川改修事業	事業区間	一級河川 大蓮寺川 勝山市栄町2丁目 ～ 旭町2丁目			
事業目的						
大蓮寺川は一級河川九頭竜川の支川浄土寺川に合流する支川で勝山市街地を流れる河川である。 現況断面の流下能力が低いため、治水安全度を現況の29m ³ /sから94m ³ /sに高め、水害から住民の生命と財産を守ることを目的とする。						
全体事業内容						
全体延長 L=2,915m 現川改修L=690m、放水路元禄線L=815m、放水路立石線L=1,410m						
事業計画	事業採択年度	用地着手年度	工事着手年度	完成予定年度		
	平成4年度	平成4年度	平成15年度	令和13年度		
事業費（千円）		全体事業費	執行済み額 (R6年度まで)	進捗率 (R6末)	残事業費 (R7以降残額)	備考
予 算 額		14,832,000	6,511,613	43.9%	8,320,387	
財 源 内 訳	国 庫	7,062,857	3,100,768		3,962,089	
	県 他	7,769,143	3,410,845		4,358,298	
費用対効果		3.96(総便益723.3億円、総費用182.4億円)				
事業の進捗状況	R6までの状況	全体延長L=2,915mのうち、現川改修から着手しており、平成31年度末時点で現川改修が完了している。令和6年度中に放水路元禄線が完成する				
	R7以降残事業	残る区間の河川改修工事を進め、事業効果の早期発現を図る。				
前回との比較	前回計画	今回計画	変更となった理由			
全体事業費	135. 5億円	148. 3億円	・社会経済情勢の変化として労務費、機械経費、材料費、諸経費の増(12.8億円)			
完成予定年度	令和13年度	令和13年度	変更なし			
事業を休止した場合の影響						
事業区間は、勝山中心市街地にあり、事業を休止した場合、住宅・学校・病院・福祉施設・幹線道路等に対し、洪水に伴う被害が及ぶことで住民生活に大きな影響があり、安全性が確保できない。						
備 考						

再 評 価 調 書

NO. 8

事業名	基幹河川改修事業	事業区間	一級河川 天王川 丹生郡越前町市 ～ 宝泉寺			
事業目的						
天王川は一級河川九頭竜川の支流日野川に合流する河川で、越前町市街地を流れる河川である。 現況断面の流下能力が低いため、暫定で流下能力390m ³ /sを確保し、その後流下能力550m ³ /s確保を目指し整備を行い、水害から住民の命と財産を守ることを目的とする。						
全体事業内容						
全体延長 L=2,000m 築堤・護岸工 L=2,000m、橋梁4橋、樋門・樋管3基、堰1基						
事業計画	事業採択年度	用地着手年度	工事着手年度		完成予定年度	
	平成15年度	平成16年度	平成17年度		令和15年度	
事業費（千円）		全体事業費	執行済み額 (R6年度まで)	進捗率 (R6末)	残事業費 (R7以降残額)	備考
予 算 額		6,650,000	4,323,180	65.0%	2,326,820	
財 源 内 訳	国 庫	3,166,667	2,058,657		1,108,010	
	県 他	3,483,333	2,264,523		1,218,810	
費用対効果		8.64(総便益673.1億円、総費用77.9億円)				
事業の進捗状況	R6までの状況	事業区間2,000mのうち、下流から天神橋までの約900mの改修が完了済み 天神橋から徳万橋までの区間は左岸引堤が完了済み				
	R7以降残事業	残る区間の河川改修工事を進め、事業効果の早期発現を図る。				
前回との比較	前回計画	今回計画	変更となった理由			
全体事業費	48.5億円	66.5億円	・築堤護岸施工に伴う仮設工法の変更、掘削土量・運搬先の変更による増(10.6億円) ・堰の構造変更に伴う増(3.9億円) ・社会経済情勢の変化として労務費、機械経費、材料費、諸経費の増(3.5億円)			
完成予定年度	令和15年度	令和15年度	変更なし			
事業を休止した場合の影響						
事業区間は越前町中心市街地にあり、事業を休止した場合、洪水に伴う被害が想定され、住宅・学校・病院・福祉施設・行政機関・幹線道路など、住民生活に大きな影響を及ぼす恐れがある。						
備 考						

再 評 価 調 書

NO. 9

事業名	基幹河川改修事業	事業区間	二級河川 笹の川 敦賀市松栄町 ～ 昭和町1丁目			
事業目的						
笹の川は、敦賀市市街地を貫通して敦賀湾に注ぐ二級河川である。 現況の流下断面が不足していることから、流下能力を現況の約520m³/sから950m³/sに高めることで、水害から住民の生命と財産を守ることを目的とする。						
全体事業内容						
全体延長 L=1,600m 掘削護岸工 L=1,600m 橋梁4橋						
事業計画	事業採択年度	用地着手年度	工事着手年度	完成予定年度		
	平成27年度	令和2年度	平成29年度	令和12年度		
事業費（千円）		全体事業費	執行済み額 (R6年度まで)	進捗率 (R6末)	残事業費 (R7以降残額)	備考
予 算 額		6,200,000	2,623,900	42.3%	3,576,100	
財 源 内 訳	国 庫	2,952,381	1,249,476		1,702,905	
	県 他	3,247,619	1,374,424		1,873,195	
費用対効果		14.33(総便益815.8億円、総費用56.9億円)				
事業の進捗状況	R6までの状況	来迎寺橋上部工撤去、矢板護岸松原橋まで完了、松島橋下部工完了、松原橋下部工施工中				
	R7以降残事業	残る区間の河川改修工事を進め、事業効果の早期発現を図る。				
前回との比較	前回計画	今回計画	変更となった理由			
全体事業費	44. 8億円	62. 0億円	・護岸補強延長の追加(6.1億円) ・残土搬出先の変更(4.8億円) ・社会経済情勢の変化として労務費、機械経費、材料費、諸経費の増(6.3億円)			
完成予定年度	令和12年度	令和12年度	変更なし			
事業を休止した場合の影響						
事業区間は、敦賀市街地に位置しており、今後氾濫が発生した場合、市街地内の民家・病院・市役所および県道交通網に多大な影響があり安全性が確保できない。						
備 考						

再 評 価 調 書

NO. 10

事業名	総合流域防災事業	事業区間	一級河川 七瀬川 福井市内山梨子町 ～ 大年町			
事業目的						
七瀬川は、一級河川九頭竜川の支川で、福井市北部に位置し、山間地の集落を流れる河川である。 現況の流下断面が不足していることから、流下能力を現況の80m ³ /sから170m ³ /sに高めることで、水害から住民の生命と財産を守ることを目的とする。						
全体事業内容						
全体延長 L=3,100m 掘削護岸工 L=3,100m						
事業計画	事業採択年度	用地着手年度	工事着手年度	完成予定年度		
	平成2年度	平成12年度	平成15年度	令和19年度		
事業費（千円）		全体事業費	執行済み額 (R6年度まで)	進捗率 (R6末)	残事業費 (R7以降残額)	備考
予 算 額		4,840,000	3,538,700	73.1%	1,301,300	
財 源 内 訳	国 庫	2,304,762	1,685,095		619,667	
	県 他	2,535,238	1,853,605		681,633	
費用対効果		1.13(総便益86.2億円、総費用75.8億円)				
事業の進捗状況	R6までの状況	事業区間3,100mのうち、松丸橋下流までの約1,700mが完了している。				
	R7以降残事業	残る区間の河川改修工事を進め、事業効果の早期発現を図る。				
前回との比較	前回計画	今回計画	変更となった理由			
全体事業費	40.0億円	48.4億円	・残土搬出先の変更等による増(3.7億円) ・河川法線の見直しによる増(1.9億円) ・橋梁基礎部の軟弱地盤対策による増(1.0億円) ・社会経済情勢の変化として労務費、機械経費、材料費、諸経費、消費税の増(1.8億円)			
完成予定年度	令和19年度	令和19年度	変更なし			
事業を休止した場合の影響						
事業を休止した場合、集落・保育園・幹線道路(主要地方道福井大森河野線、一般県道八幡横越線)等に対し、洪水に伴う被害がおよぶことで、地元住民に大きな影響があり、安全性が確保できない。						
備 考						

再 評 価 調 書

NO. 11

事業名	通常砂防事業	事業区間	こたらび谷川 大野市朝日			
事業目的						
こたらび谷川は、下流域に人家 19 戸および JR 越美北線、国道 158 号などの保全対象を含む溪流である。現在、溪岸の侵食・荒廃が激しく、溪床には多量の不安定土砂が堆積していることから、今後の豪雨時には土石流が発生する恐れがあるため、砂防堰堤を整備する必要がある。						
全体事業内容						
堰堤工 1基 調査測量設計 1式、用地補償費 1式						
事業計画	事業採択年度	用地着手年度	工事着手年度		完成予定年度	
	令和4年度	令和5年度	令和5年度		令和9年度	
事業費（千円）		全体事業費	執行済み額 (R6年度まで)	進捗率 (R6末)	残事業費 (R7以降残額)	備考
予 算 額		339,000	142,650	42.1%	196,350	
財 源 内 訳	国 庫	163,000	69,500		93,500	
	県 他	176,000	73,150		102,850	
費用対効果		10.59(総便益30.50億円 総費用2.88億円)				
事業の進捗状況	R6までの状況	調査測量設計、用地補償費を完了し、管理用道路を施工。				
	R7以降残事業	堰堤1基を完成させ、人家19戸、鉄道、国道および大野市和泉総合福祉センター等を保全する。				
前回との比較	前回計画	今回計画	変更となった理由			
全体事業費	2.1億円	3.3億円	・社会経済情勢の変化として労務費、機械経費、材料費、諸経費の増(0.2億円) ・掘削勾配の変更による補強土壁の増(0.3億円) ・現地発生土を処分するための増(0.7億円)			
完成予定年度	令和8年度	令和9年度	・土砂の流用にかかる他工事との調整に日数を要したため			
事業を休止した場合の影響						
今後の豪雨等により土石流が発生した場合、下流域の人家等に多大な被害が生じる恐れがある。						
備 考						

再 評 価 調 書

NO. 12

事業名	通常砂防事業	事業区間	猪木谷川 小浜市下中井			
事業目的						
猪木谷川は平成 25 年 9 月の台風 18 号ならびに平成 29 年 10 月の台風 21 号により土砂が流出し、人家等への被害が発生した。また、流域内の荒廃が著しく、今後の豪雨で下流域に存在する人家等に被害が発生する危険性が高い箇所であり、早急に土石流対策を実施する必要がある。						
全体事業内容						
堰堤工1基、溪流保全工93m 調査測量設計 1式、用地補償費 1式						
事業計画	事業採択年度	用地着手年度	工事着手年度		完成予定年度	
	令和3年度	令和4年度	令和7年度		令和9年度	
事業費（千円）		全体事業費	執行済み額 (R6年度まで)	進捗率 (R6末)	残事業費 (R7以降残額)	備考
予 算 額		277,200	119,700	43.2%	157,500	
財 源 内 訳	国 庫	132,000	57,000		75,000	
	県 他	145,200	62,700		82,500	
費用対効果		9.29(総便益22.12億円 総費用2.38億円)				
事業の進捗状況	R6までの状況	調査測量設計、用地補償費を完了。				
	R7以降残事業	堰堤1基および溪流保全工93mを完成させ、人家17戸、県道、市道および口名田小学校等を保全する。				
前回との比較	前回計画	今回計画	変更となった理由			
全体事業費	2. 5億円	2. 7億円	・社会経済情勢の変化として労務費、機械経費、材料費、諸経費の増(0.2億円)			
完成予定年度	令和7年度	令和9年度	・物件補償の交渉に日数を要したため			
事業を休止した場合の影響						
今後の豪雨等により土石流が発生した場合、下流域の人家等に多大な被害が生じる恐れがある。						
備 考						

再 評 価 調 書

NO. 13

事業名	通常砂防事業	事業区間	一木谷川 大飯郡おおい町名田庄井上			
事業目的						
一木谷川は、流域内の荒廃が著しく、今後の豪雨で下流域に存在する人家等に被害が発生する危険性が高い箇所であり、地域からの土砂災害防止に対する要望が高い。このため、下流域の住民の生命・財産を守るため、早急に砂防堰堤を整備する必要がある。						
全体事業内容						
堰堤工 1基 調査測量設計 1式、用地補償費 1式						
事業計画	事業採択年度	用地着手年度	工事着手年度		完成予定年度	
	令和3年度	令和4年度	令和6年度		令和9年度	
事業費（千円）		全体事業費	執行済み額 (R6年度まで)	進捗率 (R6末)	残事業費 (R7以降残額)	備考
予 算 額		234,800	70,350	30.0%	164,450	
財 源 内 訳	国 庫	108,810	30,500		78,310	
	県 他	125,990	39,850		86,140	
費用対効果		11.76(総便益23.41億円 総費用1.99億円)				
事業の進捗状況	R6までの状況	調査測量設計、用地補償費を完了。				
	R7以降残事業	堰堤1基を完成させ、人家32戸および国道、町道を保全する。				
前回との比較	前回計画	今回計画	変更となった理由			
全体事業費	2.1億円	2.3億円	・社会経済情勢の変化として労務費、機械経費、材料費、諸経費の増(0.2億円)			
完成予定年度	令和7年度	令和9年度	・用地買収予定地の相続登記の解消に日数を要したため			
事業を休止した場合の影響						
今後の豪雨等により土石流が発生した場合、下流域の人家等に多大な被害が生じる恐れがある。						
備 考						

再 評 価 調 書

NO. 14

事業名	急傾斜地崩壊対策事業	事業区間	中の谷地区 敦賀市立石			
事業目的						
中の谷地区は福井県敦賀市の敦賀半島先端部に位置し、保全対象として人家 28 戸および避難路である県道及び臨港道路を含む最大がけ高 150m最大勾配 45° の急傾斜地である。土砂災害特別警戒区域内には 24 戸の家屋が存在しており、地域住民より早期着手の要望の高い箇所であり、早急に法面崩壊防止対策を実施する必要がある。						
全体事業内容						
崩壊土砂防護柵工 L=469.0m 調査測量設計 1式、用地補償費 1式						
事業計画	事業採択年度	用地着手年度	工事着手年度		完成予定年度	
	平成28年度	平成29年度	令和元年度		令和10年度	
事業費（千円）		全体事業費	執行済み額 (R6年度まで)	進捗率 (R6末)	残事業費 (R7以降残額)	備考
予 算 額		1,350,000	784,629	58.1%	565,371	
財 源 内 訳	国 庫	619,851	364,088		255,763	
	県 他	730,149	420,541		309,608	
費用対効果		2.56(総便益32.06億円 総費用12.52億円)				
事業の進捗状況	R6までの状況	調査測量設計、用地補償費を完了し、崩壊土砂防護柵L=273mを施工。				
	R7以降残事業	残る区間の急傾斜地崩壊対策工事を進め、事業効果の早期発現を図る。				
前回との比較	前回計画	今回計画	変更となった理由			
全体事業費	11.9億円	13.5億円	・社会経済情勢の変化として労務費、機械経費、材料費、諸経費の増(1.6億円)			
完成予定年度	令和7年度	令和10年度	・進入路にかかる制約に日数を要するため			
事業を休止した場合の影響						
今後の豪雨等により斜面崩壊が発生した場合、急傾斜地に面している人家等に多大な被害が生じる恐れがある。						
備 考						

再 評 価 調 書

NO. 15

事業名	道路改良事業	事業区間	一般国道 158号 福井市境寺町～計石町			
事業目的						
当路線は、福井市から松本市に至る幹線道路であり、沿線市町の連携強化、また災害時の第一次緊急輸送道路にも指定されている重要な路線である。しかし、福井市境寺町から計石町間における区間は、道路幅員が狭く、急カーブ箇所があり、朝夕の通勤時に渋滞が発生し、また、大雨時には土砂流出を伴う通行止が発生するなど、安全で円滑な交通に支障をきたしている状況である。 当事業は、境寺～計石区間においてバイパス道路を整備することにより、強靱な道路ネットワークを確保し、地域間交流の活性化を図ることを目的として実施する事業である。						
全体事業内容						
全体延長 5,320m 幅員 9.5m(車道幅員6.5m)						
事業計画	事業採択年度	用地着手年度	工事着手年度		完成予定年度	
	平成24年度	平成28年度	平成30年度		令和12年度	
事業費（千円）		全体事業費	執行済み額 (R6年度まで)	進捗率 (R6末)	残事業費 (R7以降残額)	備考
予 算 額		12,000,000	3,644,176	30.4%	8,355,824	
財 源 内 訳	国 庫	6,728,966	2,001,955		4,727,011	
	県 他	5,271,034	1,642,221		3,628,813	
費用対効果		1.75(総便益193.0億円 総費用110.6億円)				
事業の進捗状況	R6までの状況	平成28年度より用地取得を進め、平成30年度より橋梁工事および一般部の道路改良工事を進めている。				
	R7以降残事業	残る用地取得を進めるとともに、速やかにトンネル工事に着手し事業効果の早期発現を図る。				
前回との比較	前回計画	今回計画	変更となった理由			
全体事業費	110.0億円	120.0億円	社会経済情勢の変化による労務費、機械経費、材料費、諸経費の増(10.0億円)			
完成予定年度	令和10年度	令和12年度	所有者不明な土地があることが判明し、用地取得が遅延したため			
事業を休止した場合の影響						
福井市と大野市を結ぶ幹線道路の機能が強化されないことにより、大雨時の土砂流出や大雪による通行止となる事象が解消されず、安全で円滑な交通を確保できなくなるため、有事の際に第1次緊急輸送道路としての機能が果たせない。						
備 考						

再 評 価 調 書

NO. 16

事業名	道路改良事業	事業区間	一般国道 162号 小浜市一番町～雲浜一丁目			
事業目的						
当路線は、小浜市街地を縦貫する幹線道路であるとともに、若狭湾沿岸部への広域観光ルートとして重要な路線である。当区間の大手(おおて)橋・西津(にしづ)橋は設置から80年あまりが経過しており、老朽化が著しく、また、幅員が6.0mと狭く、安全で円滑な交通に支障をきたしている。また、小・中・高校の通学路にもなっていることから、歩行者の安全対策も求められている。 このため、老朽橋の架け替えに合わせて道路改良を行い、安全で円滑な交通を確保するとともに、地域の産業の活性化、観光の振興を図る。						
全体事業内容						
全体延長 700m 幅員16.0m(車道幅員6.0m) 両側歩道						
事業計画	事業採択年度	用地着手年度	工事着手年度		完成予定年度	
	平成24年度	平成27年度	令和元年度		令和12年度	
事業費(千円)		全体事業費	執行済み額 (R6年度まで)	進捗率 (R6末)	残事業費 (R7以降残額)	備考
予 算 額		15,700,000	6,508,566	41.5%	9,191,434	
財 源 内 訳	国 庫	8,129,501	3,337,690		4,791,811	
	県 他	7,570,499	3,170,876		4,399,623	
費用対効果		1.12(総便益159.0億円 総費用141.7億円)				
事業の進捗状況	R6までの状況	平成27年度から用地取得、物件補償を進め、令和4年度から当区間の通行止を開始し、既設橋撤去工事に着手している。				
	R7以降残事業	残る用地取得を進めるとともに、橋梁新設工事を進め、事業効果の早期発現を図る。				
前回との比較	前回計画	今回計画	変更となった理由			
全体事業費	105.0億円	157.0億円	・仮設工法(鋼矢板締切)の施工方法、旧橋撤去工法(下部工、基礎杭)の変更による増(31.0億円) ・社会経済情勢の変化による労務費、機械経費、材料費、諸経費の増(21.0億円)			
完成予定年度	令和10年度	令和12年度	・仮設工法(鋼矢板締切)の施工方法の変更に伴い旧橋撤去工事の計画工程を見直したため			
事業を休止した場合の影響						
大手橋・西津橋は架設から80年以上経過し老朽化が著しく進行しているため、大型車の通行止を実施する可能性が高く、有事の際に第2次緊急輸送道路としての機能が果たせなくなる。また、城内地区へのアクセス道路が堤防上の道路のみとなり、通常時の通行のほか、緊急時における通行に著しい支障を来す。						
備 考						

再 評 価 調 書

NO. 17

事業名	道路改良事業	事業区間	福井港丸岡インター連絡道路(Ⅰ期区間) 坂井市坂井町福島～丸岡町八ツ口			
事業目的						
福井港丸岡インター連絡道路は、福井県坂井市を東西に横断し、広域交流拠点である「福井港」および県下最大の工業団地である「テクノポート福井」と北陸自動車道丸岡インターとを直結する延長約20kmの高規格道路である。本事業は、福井県北部の道路ネットワークを強化し、地域産業の活性化および観光振興、災害発生時の緊急物資輸送道路としての機能確保や渋滞解消を整備目的とした事業である。						
全体事業内容						
全体延長 L=3,600m、幅員10.5m(車道幅員6.5m)(暫定2車線) うち 橋梁 3橋						
事業計画	事業採択年度	用地着手年度	工事着手年度	完成予定年度(※)		
	平成26年度	平成27年度	平成28年度	令和9年度		
事業費(千円)		全体事業費	執行済み額 (R6年度まで)	進捗率 (R6末)	残事業費 (R7以降残額)	備考
予 算 額		23,000,000	13,273,000	57.7%	9,727,000	全体事業費 (事務費込み) 239.4億円
財 源 内 訳	国 庫	12,650,000	7,300,150		5,349,850	補助率 0.55
	県 他	10,350,000	5,972,850		4,377,150	
費用対効果		1.62(総便益359.8億円 総費用221.5億円)				
事業の進捗状況	R6までの状況	用地取得および埋蔵文化財発掘調査は完了しており、道路改良工事や橋梁工事を進めている。				
	R7以降残事業	残る道路改良工事や橋梁工事を進め、事業効果の早期発現を図る。				
前回との比較	前回計画	今回計画	変更となった理由			
全体事業費	190.0億円	230.0億円	・現場発生土の土質改良の追加による増(5.7億円) ・橋梁や農市道アンダー部等の湧水対策追加による増(13.1億円) ・社会経済情勢の変化として労務費、機械経費、材料費、諸経費の増(21.2億円)			
完成予定年度(※)	令和9年度	令和9年度	変更なし			
事業を休止した場合の影響						
・嶺北北部の東西方向の道路ネットワークが強化されず、地域産業の活性化や観光振興の機会が失われる ・主要渋滞箇所である一本田交差点での交通渋滞やクラック状態が解消しない ・整備中の(一)福井森田丸岡線との連続性が確保できず、ネットワークが構築されない						
備 考	(※)「完成予定年度」は、費用対効果の便益を算定する上で仮定したものである。					